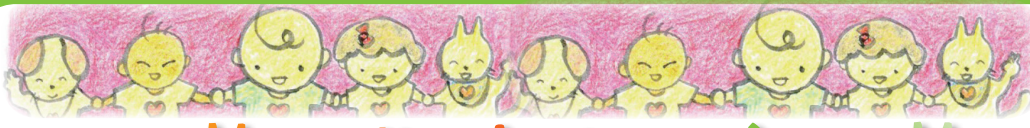


立花大敬さん「しあわせ通信」
のお話を紹介していきます



立花大敬さんの言の葉

足を運ぶ

へ人生飛行術」を読まれて、イメージ化したり、無心になったりするのが難しいと感想を頂いた方もいらっしゃると思いますので、このやり方を実行して下されば、誰でも必ず目標を達成できるという方法をお知らせすることにします。

しかし、この方法は「人生飛行術」と別の方法ではなく、あくまで「人生飛行術」が確実に実行できるような、それを補強する手段です。

この方法は、大阪の金光教玉水教会をお開きになった湯川安太郎先生のお書きになった『我が信心のあゆみ』という本に教えてもらいました。この御本は、もう何度も読み返しましたが、そのたびに新しい発見があるという、素晴らしい御本です。（古本屋で見つけました。昭和十三年発行とあります）

先生は、お家が和歌山の魚問屋で、十三の歳にはもう一家の中心として商売され、親のかかえた借金を返済するため努力されていきました。十七歳の時には、お金の事があまり苦になって自殺されようとしたくらい、それほどお金に苦労されました。

二十一歳で大阪に出て来られ、ある商家に奉公されましたが、その家の主人は商売に力を入れるような人でなく、少しでももうけが上がる、茶屋あそびや米相場にそれこそつくりつきこんでしまうという人だったので。

そんな主人を持って、それでも先生は番頭として精一杯努められました。ついにその商家は行きづまって廃業することになり、先生は最後の整理、処分まですべて一人でやりとげてから、無一文で独立し、自ら商売をはじめられたのです。そしてかなり手広く商いをされるようになりましたが、その間も、ずっとお金の問題で泣かされてこられたのです。

先生には、仏教という、お金に関する業（金光教ではめぐりというそうです）があったようです。

先生の信仰も、結局お金をどう扱ったらいいか、お金を順調に流通させるためには、どう思ったらいいか、どう行じてゆけばいいかという問題を根本として深められていったのです。

そして最後には、お金に対する執着が一切なくなっていました。というのも、もう神様、つまり無限供給の源とパイプがつながったので、必要があれば必要なだけ、神さまにお願いして出していただけるといふ事がお分かりになったので、お金を、いつなくなってしまうか知れないというので、手元にはぎりこんでおく必要がなくなっていましたからです。

この御本には、そこに到るまでの先生の具体的にたどられた道すじ、それからついに商売をやめられ金光教の教師として立たれてから、信者さんたちにとどのよう指導されたか、それらが具体的に書かれていますから、私には、人生を行じてゆく上で沢山のヒントが得られる有難い本なのです。

私は、この御本を古本屋で手に入れましたから、今出版されているかどうか分かりませんが、この本のもとなった『湯川安太郎信話』が現在玉水教会から出されているようですので、後註に、発行所あゆみ社の住所を記しておきますから、興味のある方は問い合わせせてみて下さい。

湯川先生が信者時代の話です。
ある教会に所属して時々お参りされていましたが、その教会長が、『もっとお参りせ

よ。毎日お参りせよ』とよく催促されるのです。
先生は苦勞人だけに、ちょっとひねくれているところがあって、その言葉を邪推して、『はあ、先生は人をひき寄せて教会繁昌の財源にしようとして、お参りをすすめられるんやなあ』と思っていたそうです。

そこで先生をこらしめるために、ひとつの実験を計画しました。
まず、はじめの一月は毎日お参りします。次のひとは全然お参りしません。このように参る月と参らない月を交互に六ラウンド、つまり一年間やってみて、それぞれの月の商売のもうけをソロバンではじいて確かめてみたのです。

先生の予想は、参る月、参らぬ月でもうけに全く差がないか、あるいはお参りして時間を費した分、もうけは少なくなるのではというものでした。

ところが結果は、予想に反して、お参りした月は商売が忙しくてもうけも多く、お参りしない月はヒマでもうけも少ないというものでした。

そこで念のために、もう一度実験してみることにしましたが、一ヶ月では期間が長すぎて損が大きくなるので、今度は十日間お参りをつづけて、次の十日間は参らないという風に交互に六ラウンド、合計百二十日の実験をされました。

そうしましても、数字の上にハッキリと、お参りすれば得であるという結果が出たのです。

そこで先生は、『足を運んでお参りする行為は、おかげ（目標達成）を生み出すのに有効である』という法則を発見されたのです。この法則を『足運び有効の法則』とでも名づけておきましょう。

先生が金光教の教会をはじめられて、この『足運び有効の法則』をどのように信者さんの指導に応用されたか、その具体例を一つ見ておくことにしましょう。

ある一人ぐらして仕立て物をして生計を立てている女性の信者がいました。暮し向きは楽ではない状態でした。

ある時、『頭痛で、手も痛くて仕事ができません』と教会にやってきましたが、一週間ほどお参りして全快しましたら、もうその次の日からお参りにきません。

一月ほどたつて、また頭痛、手痛でお参りしてきて一週間で全快し、またパツパツお参りに来なくなりません。次の月にもう一度同じ事がおこって『全快しました』と先生のところにお礼に來られたところ、先生はこう言いました。

「これからは毎日お参りを続けなさい」

と、その女性は、
「先生、それじゃ、この神様の信心には、お金とヒマが入用という事になりますなあ」と抗議します。

「先生、私は女の細腕で毎朝早くから夜はどうかすると一時、二時まで働きづめに働いて、どうやらこうやら、かつかつ食べさせてもらっているんです。とても、毎日お参りさせて頂く余裕はありません」

すると先生は、
「いや、そんな事はない。あなたには時間があるはずじゃ。あなたは毎月一週間も仕事をせんではないか」

「先生、それは病気で」

「その病氣中に、どれだけ仕事が出るはずやった。一日に十二時間の労働として、合計八十四時間や。それを一月、三十日に割れば一日に二、三時間ほどになる。それだけの時間があれば、お参りできるじゃろ。今後は必ず寝込まずにすむようになるから、まあ、だまされたと思ってやってみよう」

それから、この女性は毎日お参りするようになり、翌月は寝込みません。このように

病気が起こらなくなって三ヶ月がたちました。

「先生、もっと早く言ってくればもっと良かったのに」

「なんで？」

「先生、毎日お参りするようになって、ちっとも寝んようになりました」

「それはよかったです」

「それに、このマウスこそばかり貯金もできるようになりました」

「それはどういう事じゃ。あなたは女の細胞でカツカツの生活ぶりですというていたやないか」

「いえ、それが仕事の内容が変わって来ました。これまでは木綿物の仕立てで、安いお賃しかもらえませんでした。毎日お参りしだしてから、おしの手間と時間でお金もたくさんもらえる仕事もやってくるようになって楽に暮らせてもらえようになりました」

と、大そう喜んでいました。

このように足を運んでお参りする方法はとても有効なのですが、どうしてこんな単純な方法で目標達成が可能なのでしょう。それを少し考えてみましょう。まず、足を動かし、身をお参りに運ばせるものは何でしょうか。それはその人の意志であり、思いであるわけです。

どんな意志であるかといいますと、目標達成に向かう意志です。つまり、私たちがお参りへと運ぶ足の一步一步は、これから目標達成へ近づく一步一步なのです。

（人生飛行術）では、《まず、目標の座標の一点をしつかり設定すること》とありましたが、この足を運ぶ行為は、その一步一步でこの目標の設定を強固なものにしてくれるのです。この事は、足運びを何度もくりかえして「まん」になれば、そのたびごとに目標が達成できるという信念が強くなってゆくのを体験されて、お分かりになるはずですよ。

お参りに歩いていましたところ、いい匂いがただよって来ました。そこで食堂にふらふらと入っていったとしましたら、その人は目標設定があやふやなわけですね。食欲を満たすという目標が勝ってしまったことでそれが分かります。その人の歩みは、目標に向けての一直線の道じゃありません。寄り道、まわり道の状態ですから、目標が最短距離、最短距離で実現するということがあり得ないわけです。

この人の目標は何度も寄り道、まわり道しながら実現するという事になってしまいうです。もし、食堂に入って、お腹が一杯になってそのまま家に帰ってしまったら、その人は目標達成に背を向けたのですから、希望は実現できるはずがありません。

では、具体的方法を紹介しますよ。お参りの場所は、あなたの信じておられる宗教の教会、寺など。私は特定の宗派に属していませんから、もよりの神社にお参りしています。まずお参りされて、御本尊に、『私はこのような目標を設定しました』と報告します。

次に、『その目標達成のため、これから〇〇回、お参りします』と約束します。回数、十回、三十回、百回など、自分で決めて下さい。

毎日参るのは、仲々困難だと思えますから回数を約束します。それから実行に入りますが、必ずお参りの記録をとります。何月何日何時お参り、第何回目、それから簡単な感想、心境、決意など、書いておけば、それも目標設定強化の助けになります。

次にお参りについての第二の重要ポイントです。

それは、目標について、自分の希望について、出来るだけ詳しく、具体的に神仏にお話するという事です。

「神様は何でも御存知なんですから、そんなに詳しく神様にお話する必要はないんじゃないですか」と質問される方もいらっしゃいます。本当は神様に知って頂くために話すのではないのです。神様をダシにして、こういえばおこられるかも知れませんが、神様をカウンセラーにして、自分の心のアレコレを聞いて頂いて、心を整理してゆくために出来るだけ詳しく述べるのがいいのです。

この方法は、森本省念老師という方が、京都の長岡禅塾におられました。この方の話の中から思いつきました。省念老師のおばさんがカトリックの信者だったそうです。ある時、老師のおばさんの家に泊られました。障子をへだてて、そのおばさんがお祈りをしています。そのお祈りを聞いておられたのですが、その内容が、『誰々さんがこんな風な態度でした。私の言葉が誤解されて』というような、愚痴やいかりや欲や、そんなものが入りまざったお祈りで、省念老師は『神様に向かっているのを聞いてるんだらう』と驚いておられたのですが、そのうちおばさんの祈り語りが安らかなものになって、最後は『神様のお御心のままに』という神への全託でお祈りがおわたったのです。

『ああ、カトリックの神さんは本物や』と思われたそうです。湯川先生も、『神さまには、自分のどんなきたくないところでも、欲なところでも、何でも持っていきなさい。それは、私たちが人や社会、世間に向かって、きれいに行かせてもらうためです』とおっしゃっています。

愚痴でも、欲でも、どんな神様に持って行って聞いてもらいましょう。言葉が続かなくても、思い浮かぶごとに、ポツリ、ポツリでもいいから神様に聞いてもらって下さい。次第に乱れ、もつれた心がほぐされてゆき、たくましく、へ人生飛行術のポイントであった、無心の状態に近づいてゆくのです。

さて、そうしますと、足運びによって、目標設定がしつかりしてきて、さらに無心になってきますと、目標の一点を中心として心の結晶化がはじまるのです。つまり、目標の一点を本尊とする整然とした心のマンダラが完成されてゆくのです。このようにして完成された心のマンダラが（人生飛行術）でいう（イメージ化）なのです。

イメージも無理に思い描くものじゃなく、目標さえしつかり設定したら、おのづとその目標の一点の周囲に適切なイメージが構成されるようになってくるのです。それが本当のイメージ化です。

以上が、身体から入って具体的な行によって（人生飛行術）を実現させる方法です。これは効果的で実現率百％疑いなしです。

それは言いすぎだと思われるかも知れませんが、やってもらえば分かります。これを実行するのは結構大変な事です。途中でたいていの場合止めてしまいます。この人たちはパーセントの対象からはずれます。最後までやり通す人は少数ですが、その人たちは目標設定がゆるぎないのですから、百％目標が達成されること疑いありません。

（註）『湯川安太郎信話』（シリーズで発行されています。各一〇〇〇円）

発売元 大阪市西区江戸堀一ノ一〇 あゆみ社 ☎06-6443-9517

金光教玉水教会 ☎06-6441-2403

立花大敬（たちばな だいきい）さんの紹介

昭和23年大阪生まれ。大阪大学にて生物工学を研究。19歳（大在学中）、禅に入門。以来、曹洞、臨濟宗の諸老師に指導を受けてきた。42歳、伊勢神宮にて天命を知る。この時期と前後数年間に4冊の本を一気に出版する。

45歳で、進学校の高校教師となる。48歳、再び「筆の御用」を開始し、「しあわせ通信」を毎月発行。著書に「天界の禪者大いに語る」「悟」「禅」「禅の達人たち」「しあわせ通信第1集～第10集」などがあります。今回は「しあわせ通信第1集」に掲載されていた、「足を運ぶ」を紹介させて頂きました。

（〇〇〇〇）

（〇〇〇〇）

（〇〇〇〇）

（〇〇〇〇）

（〇〇〇〇）